

中国語教育における常用四字格の学習 —日本語の四字漢語との対照を通して—

楊 華

1. はじめに

中国語教育で、中上級の日本人学習者から、中国語の四字成語が難しいと聞かされることがある。筆者は中国語教育に携わって10年ほど経ったが、特に、上級者から四字熟語について多くの相談があり、本稿では、日本語の四字漢字との対照を通して中国語教育における常用四字格の学習について述べたい。林（2009）ⁱでは、中国語検定試験の56回から65回までの10回分の合格率の平均値を算出し、2級（19.8%）、準1級（11.2%）などの上級レベルの合格率は3級（40.7%）と比べて、急に低下することに必須単語数の差異などの要因も考えられる一方、四字熟語もその要因の一つだと指摘した。中国語の四字成語は覚えにくいとのことから中国語検定試験やHSKを受験する場合、四字成語の勉強で苦勞している人も多いという。日本語の中にも四字熟語は多く存在しているが、クイズ番組以外、新聞記事のような書きことば、またはニュース番組のような改まった場面にもよく使われているものの、日常会話ⁱⁱの中で使用されることは極めて少ない。一方、漢字表記の国だけに、中国では日常会話にも四字成語が頻繁に出てくる。中国語の四字成語は四つの漢字の背景に様々な物語があり、その内容も情報量も計り知れないほど豊富である。このことから四字成語を知ることは中国語を学ぶ近道にもなると言えるだろう。

中国では小学校低学年から成語を習い始め、中学校、高校、大学へと進むにつれ、国語教育において2,000語から2,500語の成語を身につけることができる。一方、日本の学校教育でも、当然ながら四字熟語やことわざは習う。しかし、日本人が日常会話で、四字熟語やことわざを使用することは、それ

『コミュニカール』4（2015）101-119

©2012 同志社大学グローバル・コミュニケーション学会

ほど多くない。したがって、中国語を一定のレベルまで学んだ日本人学習者は、その後なかなか上達しなくなるが、その原因の一つとして、成語を含む語彙量が欠けていることが考えられる。中国語の達人になる条件として、成語、慣用語やことわざ、そして古典に関する知識・素養などをマスターすることが求められる。これらが習得されていなくては中国人と対等に会話ができないⁱⁱⁱとも言われている。

また、中国語では四文字からできる語がすべて四字成語になるとは限らない。多くの先行研究は四音節からできた語を陸志甫（1956）が提唱した“四字格”と呼んでいる。中国語の四字格について、統一した明確な定義^{iv}は未だにないが、本稿では、四字格の厳密な定義には深入りせず、中国語の常用詞表の中の漢字四文字で表記される四音節語をすべて四字格とする。また日本語については、四文字の漢字からできている語を四字漢語とする。

本稿は、《現代汉语常用词表》（常用語 56,008 語収録）から抽出した四字格の 5,855 語の中の上位 10000 番までの 129 語、《HSK6 級語彙》（5,000 語）から抽出した四字格の 125 語を分析の対象とし、これらの四字格の分類と語構成、意味の特徴などについて、日本語の四字漢語と比較しながら考察を加える。また、本稿では中国語の常用四字格と日本語の四字漢語の実際の使用状況を確認し、日本語母語話者が中国語を学習する際、どのように母国語の知識を生かして効率的に習得できるのかを提案してみたい。また、中国語の常用四字格を提示し分類することによって、中国語の学習において頻度の高い四字格を重点的に学習する参考になると考えられる。

2. 中国語の四字格と日本語の四字漢語の類別

語構成から中日両言語の語彙体系を見てみると、次のように示すことができる。

- ・中国語：単純詞、合成詞（複合詞、派生詞）、慣用語、（成語）
⇒“词”から“語”へ
- ・日本語：単純語、合成語（複合語、派生語）、（四字熟語）、慣用語
⇒語から句へ

中国語においては、成語の位置づけは“词”（単語）を通り超えて、その

多くは“词”（単語）の組み合わせになっているので、“词”（単語）より大きい言語単位の“语”（句）と呼ばれている。一方、日本語においては、四字熟語の位置づけはあくまでも一語に留まっている。

2.1 中国語の四字格の類別

中国語の四字格は大きく分けて、成語と成語以外の二種類に分けることができる。また、成語には成語故事から由来したのもあれば、現代の新成語もある。そして、成語以外の四字格は主に語形の定着度の低い慣用表現や複合名詞や人名地名などである。中国語の四字格の類別を以下の【表1】に示す。

【表1】中国語の四字格の類別

四字格	成語	古典の成語故事	脱穎而出、守株待兔、四面楚歌、卧薪尝胆、画蛇添足、一鼓作气、亡羊补牢、毛遂自荐… 名列前茅、天衣无缝、废寝忘食、脚踏实地、半途而废、一丝不苟、一衣带水、前功尽弃…
		現代の新成語	齐心协力、不择手段、供不应求、坚定不移、深情厚谊、微不足道、茶余饭后、奇装异服…
	成語以外	語形の定着度の低い慣用表現など	换位思考、大操大办、文化教育、安定团结、有始有终、对外开放、自由市场、伪劣商品…

2.2 日本語の四字漢語の類別

日本語の四字漢語はその構成から四字熟語と四字熟語以外の四字漢語に分けることができる。また、四字熟語は借用語としてのものもあれば、和製のものもある。一方、四字熟語以外の四字漢語は主に漢語の複合語である。日本語の四字漢語の類別を以下の【表2】に示す。

【表2】日本語の四字漢語の類別

四字漢語	四字熟語	借用語としての四字熟語	大器晚成、一衣带水、自給自足、四面楚歌、温故知新、半信半疑、一目瞭然、厚顔無恥…
		和製四字熟語	紆余曲折、我田引水、山紫水明、十人十色、自画自賛、二束三文、無我夢中、一期一会…
	四字熟語以外	漢語の複合語	景気回復、予備選挙、都道府県、小中学校、有料道路、過大評価、宇宙科学、新予算案…

中国語の四字格と日本語の四字漢語に関する従来の対照研究では、語形が固定化されている成語と四字熟語の語形及び意味の違いを論じたものが大部分を占め、成語以外の四字格と日本語の四字熟語以外の四字漢語についての比較研究はあまり見られない。その理由として、朱京偉（2005）は、「成語と四字熟語はあまり生産性がないのに対し、成語以外の四字格と四字漢語は、日本語と中国語を問わず、二字語の複合によって比較的自由に形成され、その結合度・定着度から見ると、さまざまな段階にあるものが混在し、辞書類に収録されない場合が多いので、その全体像をとらえることは難しい」と示している。中国語の現代四字成語と成語以外の四字格は文字どおりの意味で使われ、成語よりもっと広く使用されているが、辞書にはほとんど収録されていないので、その使用実態は学習者にあまり認識されていないのが現状である。なお、中国語四字格の先行研究の中では、現代四字成語の存在を認めるものもあれば、故事成語でない現代のものはあくまでも固定的な慣用表現の一つとしてしか認めないものもある。社会情勢の変化に合わせて“政冷经热”のような新しい四字成語が日々新たに生まれていることを考えると、古典の故事成語ではなく、現代にできた固定形式をもつ四字格も新成語として幅広く認めたほうがいいのではないだろうか。

3. 中国語の常用四字格の使用実態

3.1 <新汉语水平考试大纲>

<新汉语水平考试大纲>の HSK4 級の単語数は 1,200 語で、四字格が二つだけあり、全部複合名詞である。また、HSK5 級の単語数は 2,500 語で、四字格が 6 語ある。そして、HSK6 級の単語数は 5,000 語で、四字格は 125 語ある。各級の四字格の類別の内訳及び語例は以下【表 3】に示す。

【表3】 <新汉语水平考试大纲>の四字格

級別	語数 (%)	語例とその分類		語数 (%)
HSK4 級 1200 語	2 (0.2%)	成語以外	公共汽车、电子邮件	2 (100%)
HSK5 級 2500 語	6 (0.2%)	古代からの成語	一路平安	1 (17%)
		成語以外	不好意思、电子邮件、公共汽车、高速公路、名胜古迹	5 (83%)
HSK6 級 5000 語	125 (2.5%)	古代からの成語	爱不释手、安居乐业、拔苗助长、半途而废、饱经沧桑、波涛汹涌、博大精深、不屑一顾、不可思议、不相上下、层出不穷、称心如意、川流不息、从容不迫、当务之急、得不偿失、得天独厚、丢三落四、东张西望、飞禽走兽、风土人情、各抒己见、根深蒂固、归根到底、后顾之忧、画蛇添足、恍然大悟、急功近利、急于求成、继往开来、家喻户晓、见多识广、见义勇为、竭尽全力、津津有味、锦绣前程、精益求精、兢兢业业、举世闻名、举世瞩目、举足轻重、聚精会神、刻不容缓、空前绝后、苦尽甘来、理所当然、理直气壮、力所能及、络绎不绝、名副其实、莫名其妙、难能可贵、迫不及待、齐心协力、岂有此理、千方百计、潜移默化、锲而不舍、轻而易举、全力以赴、任重道远、日新月异、实事求是、肆无忌惮、滔滔不绝、讨价还价、统筹兼顾、无动于衷、无精打采、无可奈何、无理取闹、无能为力、无穷无尽、无微不至、无忧无虑、物美价廉、小心翼翼、欣欣向荣、兴高采烈、兴致勃勃、悬崖峭壁、雪上加霜、循序渐进、咬牙切齿、一路平安、一目了然、一帆风顺、一举两得、一丝不苟、有条不紊、与时俱进、再接再厉、斩钉截铁、争先恐后、知足常乐、众所周知、总而言之	97 (77.6%)
		現代新成語	不择手段、断断续续、供不应求、精打细算、迄今为止、恰到好处、热泪盈眶、深情厚谊、天伦之乐、微不足道、无可奉告、喜闻乐见、相辅相成、想方设法、新陈代谢、一如既往、优胜劣汰、朝气蓬勃、自力更生	19 (15.2%)
		成語以外	不好意思、电子邮件、二氧化碳、高速公路、公共汽车、名胜古迹、素食主义、通货膨胀、烟花爆竹	9 (7.2%)

HSK6 級受験のための指導要領に提示された四字格の 125 語は、同級で習得が求められているすべての単語の 2.5% の割合である。数はそれほど多くはないが、その 9 割以上は古代からの四字成語または現代にできた新四字成語である。残りの 1 割未満の一般語彙の 9 語のうち、形容詞用法をもつ慣用表現の“不好意思”以外はすべて固有名詞を含む複合名詞である。HSK6 級は中国語能力試験において最上級のレベルなので、高い会話力と同時にハイレベルの読解能力も要求される。場面や状況に応じて決め文句として四字成語が多く使われ、その使用頻度も高い。特に、演説や挨拶文に四字成語が多く使用されている。その方が知的で、格調が高く、見栄えもする。また、文章の中で古典を引用したり、故事成語やことわざを交えたりする方が言葉を操る能力が高いと評価される。したがって、HSK6 級の四字格では、古代からの故事成語が最も多い。この 8 割弱の古代からの四字成語を学習するため、学習者がひたすら四つの漢字とその意味をセットにして覚えるとの方法では限界があると思われる。HSK6 級の四字格を学習するには古代からの成語の由来を知っている方がより印象深くなるはずだと考えられる。

3.2 《現代汉语常用词表》

四字格の常用語は 5,855 語（全収録語数の 10.5%）ある。常用語の使用頻度の順位による四字格の語数は以下の通りである。

- 1 番～ 10000 番：129 語（2.2%）
- 10001 番～ 20000 番：596 語（10.2%）
- 20001 番～ 30000 番：1,201 語（20.5%）
- 30001 番～ 40000 番：1,546 語（26.4%）
- 40001 番～ 50000 番：1,572 語（26.8%）
- 50001 番～ 56008 番：811 語（13.9%）

中国語は日常生活においても四字格が多く使用されているとはいえ、上に示した通り、使用頻度の高い語彙の中では四字格の割合が低いことが分かる。初級レベルの中国語教科書が複合名詞以外の四字格を敬遠する理由もここにあると考えられる。

まず、上位 10000 番の 129 語の四字格の内訳を見てみると、次の【表 4】

の通りである。

【表4】《现代汉语常用词表》上位10000番までの四字格

類別	語例	語数 (%)
古代からの成語	实事求是、千方百计、坚定不移、前所未有、丰富多彩、不知不觉、莫名其妙、因地制宜、不正之风、当务之急、脱颖而出、举世瞩目、日新月异、自言自语、四面八方、见义勇为、众所周知、来之不易、长治久安、源远流长、全力以赴、不以为然、不由自主、小心翼翼	24 (18.6%)
現代新成語	退耕还林、假冒伪劣、反腐倡廉、至关重要、各种各样、引人注目、脱贫致富、一如既往、通货膨胀、想方设法、平等互利、千家万户、弄虚作假、各行各业、自力更生、卓有成效、行之有效、方方面面、成千上万	19 (14.7%)
成語以外の四字格	社会主义、市场经济、精神文明、中华民族、人民政府、少数民族、人民法院、发达国家、无产阶级、高新技术、澳大利亚、与此同时、资产阶级、领导班子、高速公路、平方公里、巴基斯坦、社会科学、未成年人、共产主义、帝国主义、宏观调控、三个代表、生态环境、恐怖主义、计划生育、义务教育、综合治理、高等教育、统一战线、一国两制、固定资产、也就是说、不好意思、民主党派、生活方式、无论如何、天气预报、乌鲁木齐、跨国公司、事业单位、物质文明、生产资料、政治文明、自然科学、亚太地区、知识产权、人道主义、形式主义、意识形态、自然灾害、社会效益、系统工程、马列主义、有期徒刑、第三产业、生产关系、水土流失、现实主义、农副产品、高等学校、合作医疗、官僚主义、社会制度、二氧化碳、经济基础、红十字会、社会保险、经济特区、由此可见、民主集中、广播电台、国际象棋、集体经济、行政处罚、好不容易、电子商务、经济体制、商品经济、这样一来、集贸市场、报告文学、公共汽车、群众路线、这就是说、绿色通道	86 (66.7%)

上に示したとおり、上位10000番までの四字格の内訳は、HSK6級の内訳と正反対の結果になっている。故事由来の成語と現代新成語は、3割程度に留まっているのに対し、固有名詞、地名を含む一般語彙の四字格は7割弱を占めている。また、一般語彙のほとんどは複合名詞であるが、ほかに“与此同时”“也就是说”“由此可见”“这样一来”“这就是说”のような慣用表現の文副詞と、副詞用法をもつ“无论如何”“好不容易”と形容詞用法をもつ“不好意思”が入っている。

これらの分類の中で、学習者にとって習得が難しいものは古代からの四字成語だと考えられる。現代新成語と成語以外の四字格は、大体、構成要素の四文字から文字通りの意味が読み取れるので、身につけるのはそんなに労力は要らないと考えられるが、古代からの四字成語は漢字四文字が固く結びつき、古くからひとまとまりで一つの意味になって慣用的に使われるものなので、四字成語の生まれるきっかけになる成語故事を知らないと、四文字からそのままひとまとまりの意味が読み取れない。また、古代からの故事成語のなかにはふだんあまり使われていない漢字が含まれているものがあるので、“举世瞩目”の“瞩”、“全力以赴”の“赴”、“脱颖而出”の“颖”などの発音と書き方は特に注意する必要がある。それに、一文字一文字の意味を理解し、全体としてのひとまとまりの意味を理解する必要もある。

4. 日本語の四字漢語と中国語の四字格との関連

4.1 日本語の四字熟語と中国語の成語

村木 (2004) は、1987 年から 2003 年までの『毎日新聞』を資料として四字熟語の使用状況を調査したが、中国の故事成語に由来するものがあまり用いられておらず、よく使用されるものは和製の四字熟語である、という結果を示している。上位 200 語についての詳しい分析結果は以下の【表 5】に示す。

【表 5】『毎日新聞』上位 200 語四字熟語の使用状況

分類	語例	語数 (%)
中国語の故事成語に由来するもの	一問一答 喜怒哀楽 正々堂々 一喜一憂 意气投合 疑心暗鬼 起死回生 切磋琢磨 半信半疑 臨機应变 五穀丰稔 春夏秋冬 千差万别 出处进退 弱肉强食…	50 (25%)
仏典に由来するもの	四苦八苦 老若男女 无我梦中 言语道断 一念发起 自由自在 异口同声 一心不乱 不可思议 生老病死 女人禁制 自业自得 极乐净土 森罗万象	14 (7%)
西洋に由来するもの	试行错误 二人三脚 机会均等 一石二鸟 情状酌量 共存共荣 心神耗弱 心神丧失 二者折一 自给自足 时代错误 正当防卫 相互扶助 三位一体 新陈代謝…	23 (11.5%)
日本で作られたもの	中途半端 时期尚早 全力投球 无病息灾 前代未闻 纲纪肃正 大义名分 创意工夫 恶战苦闘 满场一致 不协和音 事实无根 真剑勝負 右往左往 本末颠倒…	113(56.5%)

また、村木（2004）では、中国語の故事成語に由来する「愛屋及烏」「阿吽之息」「悪木盗泉」「悪衣悪食」など、日本の四字熟語辞典の類に立項されているものの、新聞紙上では使用されていないものも相当多いことも指摘している。

日本語の四字熟語は、構成という点では強く古典中国語の影響を受けている。中国語の四字熟語を受け入れた時、どのようなかたちで日本語に定着していったかについて、次のような4つのパターンにまとめることができる。

- ① 最も多いのは、中国語をそのまま借用しているものである。ただ、文字も全く同じで、意味も同じなものもあれば、文字は同じでも、違った意味をもつものもある。⇒ 「大器晩成」(大器晩成)、「半信半疑」(半信半疑)、「四面楚歌」(四面楚歌)、「温故知新」(温故知新)、「喜怒哀楽」(喜怒哀乐)、「千差万別」(千差万别)、「驚天動地」(惊天动地)、「傍若無人」(旁若无人)、「行雲流水」(行云流水) … ; 「落花流水」(落花流水)、「一刀両断」(一刀两断)、「朝三暮四」(朝三暮四)、「八面玲瓏」(八面玲珑)、「一長一短」(一长一短) …
- ② 中国語から借用した際、元の成語と特定の文字が違ったり、語順が逆になったりするものがある。その意味も①に示したのと同じように、意味が全く同じものもあれば、違った意味をもつものもある。⇒ 「龍頭蛇尾」(龙头蛇尾)、「薄利多売」(薄利多销)、「良妻賢母」(贤妻良母)、「日進月歩」(日新月异)、「意気投合」(情投意合) … ; 「鉄心石腸」(铁石心肠)、「換骨奪胎」(脱胎换骨)、「大言壯語」(豪言壮语) …
- ③ 中国語の成語を四字熟語ではなく、和訳したもの。⇒ 「魚が水を得たかのような」(如鱼得水)、「良薬は口に苦し」(良药苦口)、「次々と現れて尽きることはない」(层出不穷)、「あらゆる面で周到である」(面面俱到)、「一つだけではない、いろいろある。一度だけでない。」(不一而足)、「烏合の衆」(乌合之众) …
- ④ 中国語の成語を二文字漢語に訳したもの。⇒ 「蛇足」(画蛇添足)、「画餅」(画饼充饥)、「傾国」(倾城倾国)、「杞憂」(杞人忧天)、「守株」(守株待兔) …

また、四字成語において、日本人母語話者が中国語を学習する際、注意すべき点がある。村木（2004）がすでに示したように、日本語の四字熟語で最も多く使われているのは和製漢語の四字熟語である。これらの四字熟語は日本で作られたもので、そのまま中国語の四字成語として使うことはできない。また、「羊頭狗肉」（挂羊头卖狗肉）、「疑心暗鬼」（疑心生暗鬼）のような中国語の四文字以上の成語が日本語の四字熟語に翻訳されたものもあり、これらの四字熟語もそのまま中国語として使うと誤用になる。

4.2 日本語の四字漢語と中国語の四字格

日本語の四字熟語以外の四字漢語について、野村（1975）の研究がある。野村（1975）は新聞語彙調査で得た 3,537 語^{vi}を対象に、四字漢語の語構成の視点から分類を行った。その結果は次のとおりである。

- ① (○+○) + (○+○) : 3224 語 (91.2%) 上院議員、景気回復、公式訪問、応援演説…
- ② [(○+○) + ○] + ○ or [○ + (○+○)] + ○ :
207 語 (5.9%) 郵便局長、自家用車、文房具店、都知事選…
- ③ ○ + [(○+○) + ○] or ○ + [○ + (○+○)] :
91 語 (2.6%) 新予算案、総建築費、両飛行士、前副大臣…
- ④ (○・○) + (○+○) or [(○・○) + ○] + ○ or (○+○) + (○・○) :
12 語 (0.3%) 中長距離、小中学校、農畜製品、巡視船艇…
- ⑤ ○ + ○ + ○ + ○ : 3 語 (0.1%) 都道府県、市区町村、甲乙丙丁

一方、中国語の常用四字格上位 10,000 語の成語以外の四字格（86 語）について語構成を分析したところ、以下のような結果になる。

- ① (○+○) + (○+○) : 74 語 (86%) 社会主义、市场经济、精神文明、

中华民族、人民政府…

- ② [○ + (○ + ○)] + ○ : 2語 (2.3%) 未成年人、红十字会、
- ③ ○ + [○ + (○ + ○)] : 2語 (2.3%) 好不容易、不好意思
- ④ (○・○) + (○ + ○) or (○ + ○) + (○・○) :
3語 (3.5%) 高新技术、亚太地区、民主党派
- ⑤ ○ + (○ + ○) + ○ : 2語 (2.3%) 这就是说、也就是说
- ⑥ 地名 : 3語 (3.5%) 澳大利亚 巴基斯坦 乌鲁木齐

中国語の四字格は日本語の四字漢語と同じように二文字 + 二文字からの構成パターンが最も多く見られる。中国語の二音節語と日本語の二字漢語がともに高い比率で存在しているからだと考えられる。中国語の⑤のパターンは、日本語にはないが、中国語には複合副詞として存在している。日本語の⑤のパターンは、中国語の上位 10000 番までの常用四字格には見当たらないが、“四字骈语”としての現代常用詞表には多く存在している。“吃拿卡要”“柴米油盐”“吹拉弹唱”“是非曲直”“老弱病残”“油盐酱醋”“摸爬滚打”“衣食住行”“生老病死”“风花雪夜”“之乎者也”“起承转合”などがこのタイプの語である。

日本語タイプの②③の多くは、接尾辞及び接頭辞によって構成されているが、中国語では接尾辞、接頭辞による四字格はそれほど多くない。

また、中国語の成語以外の四字格の一部は、書き言葉と格調の高い話し言葉として、よく使われている。特に、使用頻度の高いものには、一定の形を保っているのもあれば、自由な形のものもある。常用四字格をまとめてみると、多くの固定したかたちが見られた。そのかたちと語例の一部を【表 6】に示す。

【表6】よく見られる成語以外の四字格の固定したかたちと語例

かたち	語例	かたち	語例	かたち	語例
七～八～	七嘴八舌	不～其～	不乏其人	如～似～	如花似玉
上～下～	上行下效	不～之～	不白之冤	千～万～	千差万别
～来～去	眉来眼去	大～大～	大包大揽	不～不～	不尴不尬
能～善～	能歌善舞	自～自～	自给自足	半～半～	半信半疑
～天～地	惊天动地	忽～忽～	忽冷忽热	有～有～	有山有水
左～右～	左顾右盼	有～无～	有气无力	一～一～	一五一十
东～西～	东躲西藏	前～后～	前赴后继	十～九～	十拿九稳
三～五～	三番五次	出～入～	出生入死	一～半～	一知半解
一～不～	一言不发	四～八～	四面八方	大～小～	大同小异
不～而～	不约而同	无～无～	无法无天	大～特～	大书特书
万～一～	万无一失	有～必～	有求必应	山～水～	山清水秀

一定なかたちを保っている四字格は造語能力が高い。学習者にとって、固定したかたちは四字格を学習するヒントとなるので、一定のかたちを理解し、覚えることが、四字格の効率的な学習につながると考えられる。

5. 四字格の学習にあたって

四字格は中国人の日常生活で多く使われている。特に、講演のなかでは四字故事成語が好んで使われる。成語はほとんど四文字で構成されているので、中国語の音韻の特徴に一致している。それ以外、文章、または、話の格調を高める機能があることや、四文字という短いかたちで高度な修辞効果をもたらすことができるなどの理由が考えられる。

中国人がよく使用している成語は2,000語から2,500語だと言われている。外国人がどのぐらい習得すべきなのかについては、『HSK6級』では、125語収録されている。沈（2014）では、中国で使われている小学校の国語の教科書（6年間12冊）には四字成語が617語あるとのデータに基づき、一般的には、中国語関係の文系の仕事に従事する外国人は1,000語以上の成語が理解できればならない。またその半分の500語を実際に活用できるようにしたほうがいいとの指摘^{vii}があった。そして、中国語検定試験の準1級に合格するためには、300語の四字成語をしっかりと理解する必要があるとも言われている。沈（2014）では、中国語学習者がまず覚える必要のある成語を次のように示している。

- ①中国の文化・歴史に背景のある故事成語 ⇒よく使われているのは100語前後とされている。(画蛇添足、杞人忧天、自相矛盾、守株待兔、拔苗助长、风声鹤唳、草木皆兵、杯弓蛇影、朝三暮四、班门弄斧、背水之战、望梅止渴、叶公好龙、愚公移山、围魏救赵、掩耳盗铃…)
- ②同義語・類義語のないもの ⇒同じ意味をほかの成語で表現しにくいもの。(实事求是、名副其实、虎视眈眈、神出鬼没…)

四字故事成語は比較的に新聞、講演などでよく使用されているが、日常会話にはそれほど故事成語は使われていない。一方、四字成語以外の四字格は日常生活でも多く使用されている。日本語との関連性から、四字格の学習方法として、次のような提案をしたい。

I) 他の語彙の学習と同じように、まずは正しい発音を覚える。他の語彙を学習するときも同じであるが、まず、構成要素の四文字の発音をしっかり覚える必要がある。特に、故事成語の中には、普段、あまり使用されない文字が含まれているものがあるので、それらの文字の発音と書き方には特に留意すべきである。例えば、“蔚然成风”の“蔚”、“千里迢迢”の“迢”、“瞠目结舌”の“瞠”、“孑然一身”の“孑”などは中国語の常用漢字ではないが、故事成語のなかではよく使用されている。普段あまり使われていないだけに、その発音と書き方、意味などを特に注意して学習する必要がある。

II) 四字格の意味を正確に理解しなければならない。四字成語には普通、字面から読み取る意味と比喩・派生的な意味をもっている。“大同小异”“脚踏实地”“天衣无缝”などの一部の故事成語と“供不应求”“微不足道”“不择手段”などの現代新成語は、構成要素の四文字から簡単に意味を理解することができるように見えるが、場合によっては、簡単そうに見えるものに落とし穴があるかも知れない。例えば、“惟妙惟肖”を“一模一样”と間違っ、て、“他跟爸爸长得惟妙惟肖。”といった誤用例を生じることになる。

III) 文中での正しい用法を身につける。四字格は、文中でひとまとまり

の文成分として、機能を果たすことができる。一般的には、四字格は、主語、述語、賓語（目的語）、定語（連体修飾語）、状語（連用修飾語）、補語^{vii}などの文成分として使用されている。しかし、他の語彙と同じように、一つの四字格はすべての文成分になることができるとは限らない。例えば、“各奔前程”は、普通、述語としてしか使われていないが、“各奔前程地走向工作岗位”は状語として使っているので、誤用になる。できれば、四字格の用法を学習するときに、いろいろな用法をもつ実例を暗記した方が望ましい。そうすれば、意味を理解した上で、文脈での使用も習得することができる。

IV) 四字格の構成パターンを正確に分析する。四字格の多くは、比較的固い結びつきで構成されている。その内部構造を分析すると、ほとんど前後二つの部分に分けることができる。二音節語と同じように、その前後二つの部分は主述構造（叶公好龙、夸父追日…）、動賓構造（明察秋毫、指手画脚…）、動補構造（掉以轻心、重于泰山…）、偏正構造（害群之马、破竹之势…）、並列構造（日新月异、铜墙铁壁…）などの構成パターンを成している。四字格を学習する時、意味を理解した上で、その内部構造を分析する力を養うことも重要である。例えば、“我们不能说长道短别人的生活”は誤用例である。その理由は“说长道短”が動賓構造で、文中で使う場合、その後、さらに賓語を置くことはできないからである。“我们不能对别人的生活说长道短”に直さなければならぬ。四字熟語の内部構造をきちんと押さえることは正確な使用につながっている。

V) 四字格の発音、意味、用法を習得したうえで、ほかの四字格または他の語彙とのつながりを見つけたほうがいい。習得した四字格の同義語及び反義語を探し出して覚えることは最良の語彙学習だと思われる。それによって、語彙量を増やすことにつながる。“举一反三”という四字故事成語の通り、一つのことから他の多くのことを類推することによって、「一を聞いて十を知る」という効果が得られる。

VI) 日本語の四字熟語との関連性をヒントに学習する。日本語の四字漢語と対照しながら学習したほうが効率的だと思われる。4.1に示したと

おり、日本語の四字熟語と中国語との対照の中で、全く同じ表記で、意味も同じようなものもあれば、同じ表記で、違った意味をもつものもある。そして、表記が少し違っているが、意味は同じものと違った意味をもつものがある。この中で、同じ表記、または、少し違った表記で、ほぼ同じ意味を表すものは数多くあるが、同じ表記、或いはよく似た表記ではあるが、違った意味を表す四字熟語に特に留意すべきである。また、他に、日本語の和製四字熟語をそのまま中国語として使用しないことにも注意する必要がある。

林（2009）では、第56回から65回までの10回分の中国語検定試験に出題された四字成語に関する問題の調査分析が行われている。その結果、2級の四字成語の問題は68問で、その中で、日本語の四字熟語と類似したものは6語（轻举妄动、半信半疑、大公无私、杞人忧天、千差万别、名胜古迹）あり、準1級の四字成語問題は316問で、その中で日本語の四字熟語と類似したものは20語（大同小异、单刀直入、自暴自弃、自由自在、古今中外、三言两语、起死回生、一目了然、暴饮暴食、不偏不倚、公明正大、画龙点睛、津津有味、烟消云散、电光石火、独一无二、一视同仁、流言蜚语）あった。また【表3】で示したHSK6級の単語表にある四字成語（97語）の中には日本語と類似したものは18語（后顾之忧、画蛇添足、津津有味、锦绣前程、聚精会神、刻不容缓、空前绝后、名副其实、岂有此理、日新月异、无精打采、小心翼翼、悬崖峭壁、咬牙切齿、一目了然、一帆风顺、一举两得、众所周知）あった。数から見ると、試験問題に使われる中国語の四字成語は、日本語の四字熟語と類似したものはそんなに多くない結果が見られた。また、日本語の四字熟語辞典に収録されたものの中に、中国語の故事成語から由来したものが数多くあるが、それと類似した中国語の四字成語は、「中検」の成語出題リストにはあまりなかった。その原因としては、意味が分かりやすいものは試験問題から敬遠されるのが考えられる。日本人の学習者は四字成語を勉強する際、日本語の四字熟語と類似したものを学習しがちなので、受験する場合、日本語の四字熟語と違ったものを重点的に学習する

のが効率的かもしれない。しかし、また、中日同形語としての四字熟語の中の、「小心翼翼、朝三暮四、同工異曲、落花流水、一刀両断」などのようなものは中国語の四字成語と意味・用法が違っているため、日本人学習者は特に注意しなければならない。他に、「興味津々」の中国語訳は“津津有味”“兴致勃勃”の二つになるが、このような日本語の四字熟語と対応する中国語の四字成語が複数である場合、同義語としての中国語の四字成語の意味とその用法の違いを正確に確認する必要もある。

上に述べた6点以外に、初級教科書には適宜、常用の四字格の語彙を取り入れることも提案したい。四字格の構造からも分かるように、その多くの構成パターンは二音節語と二音節語の組み合わせである。たとえ、新出単語の中に四字格の語彙が出現していなくても、今後の学習のために、その二音節の単語はどのような四字格を作ることができるのかについても、合わせて明確にする方がいいと思われる。成語以外の四字格は、辞書類にほとんど収録されていないため、その学習は日ごろの観察と努力に頼らなければならない。上級学習者は、日常的に膨大な数の四字格に対するリスニング力と表現力の向上に努め、言語に現れる日中間の文化の差異を乗り越えるための工夫を欠いてはならないと考えられる。

6. 今後の課題

今回は HSK6 級、《現代汉语常用词表（草案）》の使用頻度の上位 10000 番までの四字格を抽出し、その四字格の分類、構成パターン、意味と特徴を分析した上で、日本語の四字漢語との比較を試み、日本語母語話者が中国語を習得する際、どのように効率よく四字格を学習するのかについて提案した。

今後の課題として、日本語の使用頻度から四字漢語の使用実態をまとめ、その構成の分析を行い、また、中国語の常用詞表の 10000 番以降の四字格の分類と構造分析をすることによって、日本語の四字漢語と中国語の四字格の関連性をさらに見出したい。学習者から調査データを収集して、より客観的に両言語の学習者にとっての問題点を具体化したいと考えている。それにしたがって、中日両言語のお互いの学習者に対し、学習する手助けのヒントを

与えたい。

注

- 1 林（2009）は、3級までの四字熟語の出題がほとんどないのに対し、2級以上、特に準1級の出題数は一気に増えていることに注目し、5年分の試験問題に基づき、出題された四字熟語の調査を試みた。
- 2 筆者が日本に来て10数年経ったが、日本人との会話の中で四字熟語を実際に使った記憶もほとんどないし、日本人から聞いたこともあまりなかった。「日本人が日常会話で、四字熟語やことわざを多用するかという点とそうではなく、多用すれば、むしろいやらしさが鼻に付き、意味の伝達という点でもむしろ逆効果でさえある」という指摘さえも聞いたことがある。
- 3 相原茂（2014）を参照。
- 4 関連する先行研究においては、冯胜利（1997）の四字格の定義を一般的に認められている。冯胜利（1997）は、「四字格是指由四个字组成的一种语言格式、在汉语里四字并联常常组成一种独特的表达形式、以至成为一种独立的格式、在汉语里构成一个独立的语言单位、因而它们在使用中具有很强的独立性」（四字格とは四文字で組み合わせられた言語形式である。中国語において四文字が繋がって独特な表現形式を作り、独立した形式としての言語単位を構成している。したがって、実際の使用のなかで強い独立性をもっている）と定義している。
- 5 中国語の“詞”は日本語の「語」に、中国語の“語”は日本語の「句」に対応している。
- 6 固有名詞を考察範囲から除いた。ほかに①「御」という接辞のつくもの、②「三千二百」「十五年間」のような単純な数詞を含むものも考察範囲外としている。
- 7 沈（2014）を参照。
- 8 中国語の文成分のひとつで、述語の後に置き、述語を補足的に説明する役割を果たす。

<参考文献>

- 周荐（1997）论四字语和三字语《语文研究》1997年第4期
吕叔湘（1963）现代汉语双音节问题初探《中国语文》1963年第1期
陆志韦（1956）汉语的并立四字格《语言研究》1956年第1期

- 冯胜利 (1997) 《汉语的韵律、词法与句法》北京大学出版社
- 杨晓黎 (1996) 四字格新词语及其成分《江淮论坛》1996年第4期
- 姚殿芳 潘兆明 (1985) 说“四字格”《新疆大学学报(哲学社会科学版)》1985年第4期
- 钱韵 余戈 (2008) 现代汉语四字格成语的词汇化研究《语言研究》2003年第2卷第6期
- 陶原珂 (2002) 试析汉语四字格成语的类型及其释义方式《学术研究》2002年第9期
- 安华林 (2007) “四字格”的词汇化《北华大学学报(社会科学版)》第8卷第5期
- 王天虹 (2013) 论汉语四字格在对外汉语词汇教学中的意义《内蒙古师范大学学报(哲学社会科学版)》第42卷第2期
- 马国凡 (1987) 四字格论《内蒙古师大学学报(汉文哲学社会科学版)》1987年第三、四期
- 吴丽君等 (2002) 《日本学生汉语习得偏误研究》中国社会科学出版社
- 莫彭龄 (2003) “四字格”与成语修饰《常州工学院学报》2003年第3期
- 沈国威 (2014) 《汉语词汇教学新探索》关西大学中国语教材研究会
- 朱京伟 (2005) 《日语词汇学教程》外语教学与研究出版社
- 王锐 (2008) 《日语纵横—兼与汉语比较》外语教学与研究出版社
- 相原茂 (2014) 「中国の「諧音」文化」冲森卓也 蘇紅編著『中国語と日本語』朝倉書店
- 曾根博隆 (2012) 「中国語常用四字熟語について」『カルチュラル：明治学院大学教養教育センター紀要』6(1)
- 張麗華 (1995) 「中日の四字熟語に見られる相違—中国語起源のものを対象に—」『日本語の研究 宮地裕・敦子先生古稀記念論集』
- 楊立国・蘇卓 (2010) 「四字熟語・ことわざの相違点に関する中日比較研究」『岡山商大論叢』第46卷第2号
- 林怡州 (2009) 「中国語検定試験から見た中国語の四字熟語」『現代中国事情』
- 高橋雅延 (2005) 「日本語四字熟語 833 語の熟知値」『聖心女子大学論叢』104
2005年2月
- 村木新次郎 (2002) 「四字熟語の品詞性を問う」玉村文郎編『日本語と言語学』明治書院
- 村木新次郎 (2004) 「現代日本語の中の四字熟語」北京大学日本文化研究所『日本語文化研究』第五辑 学苑出版社
- 野村雅昭 (1975) 「四字漢語の構造」『電子計算機による国語研究Ⅶ』秀英出版
- 石井正彦 (2007) 『現代日本語の複合語形成論』ひつじ書房

- 宮腰賢（1993）「四字熟語について」『東京学芸大学紀要 2 部門』44
- 《现代汉语常用词表》课题组（2008）《现代汉语常用词表（草案）》商务印书馆
- 国家汉办 / 孔子学院总部（2010）《新汉语水平考试大纲》HSK4 级 商务印书馆
- 国家汉办 / 孔子学院总部（2010）《新汉语水平考试大纲》HSK5 级 商务印书馆
- 国家汉办 / 孔子学院总部（2010）《新汉语水平考试大纲》HSK6 级 商务印书馆

On Teaching of the Chinese Common Four-character Structure from the Perspective of Comparing with the Japanese Yojijyukugo

Yang HUA

Keywords: four-character structure, four-character proverbs and idioms, yojijyukugo, yojikango

具有中高级水平的日本学生普遍对学习掌握汉语中的四字格词汇感到有困难。日语中也有大量的“四字汉语”“四字熟语”。如何利用日语中的这些“四字汉语”“四字熟语”知识来更好地掌握汉语四字格，在对外汉语教学中很有意义。本文从《新汉语水平考试大纲》HSK6级的5000个词汇中筛选出了129个四字格词汇，从《现代汉语常用词表》使用频率高的10000个词汇中抽取出了125个四字格词汇，加以研究。首先分析了汉语中这些包括四字成语在内的常用四字格的使用状况及结构，并结合日语“四字熟语”“四字汉语”的使用状况及构成特征，总结出了中文的四字格和日语“四字汉语”相关联的特点。诸如：日语中像“落花流水”“一刀两断”“朝三暮四”等“四字熟语”，虽然和汉语使用相同或相似的字但所表达的意思完全不同；像“我田引水”“中途半端”“事实無根”等“四字熟语”，用的都是汉字，但是很多都是和式日语造词，等等。这些词汇在应用时要留意其用法，尽量避免出现病句。另外，本文还结合汉语四字格的特点，从四字格的词义、结构用法、与汉语其他词汇的关联，与日语的关联等方面着手，提出了针对日本学生的汉语四字格学习方法，多方位地帮助汉语学习者扩大掌握四字格的词汇量。